

平成 23 年 8 月 9 日
社団法人日本物流団体連合会

都立西高等学校で佐川急便の「奉仕授業」を実施

社団法人日本物流団体連合会（物流連 伊藤直彦会長）は、6 月 29 日に、都立西高等学校（石井杉生校長 杉並区宮前 4-21-32）において、高校 1 年生を対象とした教科「奉仕」の講師依頼を受託しました。

この取組みは、物流連が、都立高校の教育支援コーディネーター業務を行う NPO 法人スクール・アドバイス・ネットワークより、企業の社会貢献活動について講師依頼を受けたもので、物流業界の社会的認知度向上にも繋がる取組みであると考え、物流連会員企業の佐川急便株式会社（平間正一社長）に講師選出を依頼し、同社総務部環境推進担当部長の石野順三氏が授業を行いました。

当日は 14 時 10 分から 15 時 00 分までの 6 限と 15 時 10 分から 16 時 00 分の 7 限の 2 回にわたり、『CSR 企業活動と地域社会』と題して、「CSR とは何か」「なぜ企業は CSR 活動に熱心なのか」といったテーマについて、佐川急便を中心とした SG ホールディングスグループの CSR 活動を題材に昨今の CSR を説明し、また日本には古くから CSR の源流ともいえる「近江商人の家訓（三方よし）」といった企業倫理精神があることについても説明しました。

石野氏は、生徒の記憶にも新しい東日本大震災の影響と対応についても触れ、物流は社会基盤であり、ライフラインの一つであることを実感し、改めてその社会的責任の重さを再認識したと話しました。そして、同社は事業活動を通じて、お客様や社会の期待にこたえることで地域社会へ貢献することができるという極めて重要な役割を担っていると説明しました。

都内屈指の進学校として知られる都立西高等学校では、企業など外部から講師を招き、企業がどのような社会貢献活動を行っているか、その理由や目的を聞き、生徒自身が今後どのように社会に貢献していくかを考える機会を与え、最終的に NPO 法人を起業させることを企画しています。

物流連がこのような出前授業を受託したのは今回が 2 度目となります。職場体験や施設見学会とは異なり、出前授業では、大人数が分散することなく短時間で様々な業種の社会人の貴重な話を聞くことができ、また生徒の外出がない分、リスクが少なく費用も抑えることができ、学校関係者からも強い期待が寄せられています。

当連合会は、今後もこのような講師要請に対して、人材育成・広報委員会に設置した職場体験・施設見学推進小委員会を中心に、会員企業・団体への参加呼びかけを行い、授業実施時のサポートなどを行っていく予定です。



社団法人日本物流団体連合会

[TEL:03-3593-0139](tel:03-3593-0139)

担当：中野